

第6学年 社会科学習指導案

日時：年 月 日（ ）第 校 時

場所： 小学校 年 組

児童： 名

指導者： 立 小学校

1. 単元名 武士による政治の始まり(全9時間) (東京書籍 新しい社会 6)

2. 指導について

(教材観) 本単元では、武士による武士のための政治が始まったことを理解させることを目標に、問題解決的な学習を展開する。鎌倉幕府による政治を「武士のための政治」としているのは、鎌倉幕府の基盤であるご恩と奉公の関係が、「自分の領地を認めてもらう」、「命をかけて戦った戦争の恩賞をもらう」などの武士の願いに応える仕組みをとっているからである。武士の利益を守る組織である鎌倉幕府がどのように成立し、どのように変化していったのかについて、子ども自身が問いをもち考察することができるよう、様々な資料や事実と出合わせる。

(児童観) (略)

(指導観) (略)

3. 単元の目標

当時の東アジアの情勢や、平清盛、源頼朝、源義経、北条時宗、武士たちなどの働きに着目して、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元軍との戦いについて、地図や年表などの資料で調べて、この頃の世の中の様子を考え、表現することを通して、武士による政治が始まったことを理解するとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとしたり、歴史上の人々の立場で考え、歴史的事象の意味を考えようとしたりする態度を養う。

4. 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①当時の東アジアの情勢や平清盛、源頼朝、源義経、北条時宗、御家人などの働きなどについて、年表や資料などで調べて、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いの様子を理解している。</p> <p>②集めた情報を整理して、年表や白地図にまとめて、武士による政治が始まったことを理解している。</p>	<p>①当時の東アジアの情勢や平清盛、源頼朝、源義経、北条時宗、御家人などの働きに着目して問いを見だし、源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いの様子について考え、表現している。</p> <p>②世の中の様子や人物の働きを関連付けたり総合したりして、ご恩と奉公の関係の意味やこの頃の世の中の様子を考え、適切に表現している。</p>	<p>①源平の戦い、鎌倉幕府の始まり、元との戦いについて、予想や学習計画を立てたり見直したりして、主体的に学習問題を追究、解決しようとしている。</p> <p>②学習したことをもとに、幕府や御家人が直面した課題への対策を考えようとしている。</p>

5. 指導と評価の計画(全9時間)

※●…「記録に残す評価」

時間	ねらい等	○主な学習活動	□資料	評価方法と【評価規準】
1 ・ 2 ・ 3	武士とはどのような人たちなのか、源平合戦はどのような戦いだっただのかを話し合い、学習問題をつくることができるようにする。	○人の様子や建物の様子に着目して都の貴族と武士を比較し、武士とはどのような人なのかを捉え、自分なりに表現する。 ○源氏と平氏の勢力範囲、戦いの様子や経過に着目して調べ、年表や地図にまとめる。 ○源頼朝が兵をあげると、頼朝のもとに武士が次々と集まってきたことに着目し、疑問を出し合う。 ○源氏と平氏の関係、源頼朝と武士の関係に着目して、予想を立てる。	□絵「都の貴族の屋敷の様子」 □絵「武士のやかたの様子」 □地図「源氏の軍の進路」 □文「騎馬戦の天才 源義経」 □学習計画表	発言内容やノートの記述から、「武士たちが自分の領地を大切にしていることを理解しているか」を評価する。 【知-①】 ノートの記述から、「源頼朝が平氏打倒のために拳兵し、源義経たちの活躍により源氏が勝利したことを理解しているか」を評価する。 【知-①】 発言内容やノートの記述から、「源氏と平氏の関係、源頼朝と武士の関係に着目して問いを見いだしているか」を評価する。【思-①】 ●発言内容や学習計画表から、「学習問題の解決に向けた予想や学習計画を立て、解決の見通しを持っているか」を評価する。 【態-①】
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>単元の学習問題</p> <p>なぜ、武士たちは源頼朝に従うようになったのだろう。</p> </div>				
4	平清盛がどのようにして勢力をのばし、武士による政治を行ったのかを理解できるようにする。	○藤原氏との共通点に着目し、平清盛が政治の面でどのように力をつけていったのかを調べる。 ○平氏による政治を、源氏や地方の武士がどのように受け止めていたかを調べる。	□年表「平清盛の年表」 □平時忠の言葉「平家にあらずんば人にあらず」 □絵画「平治物語 絵巻」	発言内容やノートの記述から、「平清盛が戦いで勢力をのばし、藤原氏と同じように天皇家と関係を深めたり、経済力をつけたりして、武士による政治を行ったことが理解できているか」を評価する。 【知-①】
5	源頼朝がどのような政治を行ったのかを理解できるようにする。	○武士たちの願いに着目し、源頼朝がどのようにして武士を従えていったのかを調べる。 ○守護、地頭の役割や、鎌倉幕府の仕組みを調べる。	□年表「源頼朝の年表」 □図「ご恩と奉公」 □図「鎌倉幕府のしくみ」 □写真「鎌倉と幕府の位置(復元模型)」	●発言内容やノートの記述から、「源頼朝が関東地方の武士とご恩と奉公の関係を結び、それが鎌倉幕府の基盤となったことを理解できているか」を評価する。【知-①】

6	なぜ、武士たちは北条氏中心の鎌倉幕府に従ったのかを考えられるようにする。	○武士たちの願いに着目し、承久の乱について調べる。	□文「北条政子のうたえ」 □文「御成敗式目」	●発言内容やノートの記述から、「学習問題や学習計画を振り返り、北条氏が中心となった鎌倉幕府に武士たちが従った理由を表現できているか」を評価する。 【思-①】
7 (本時)	鎌倉幕府と武士たちは元軍とどのように戦ったのかを理解できるようにする。	○戦い方の違いに着目し、幕府と元軍との戦いについて調べる。 ○武士たちの願いに着目し、元軍との戦い前後の武士たちの思いを考える。	□地図「モンゴルの広がり」 □地図「元軍の進路」 □絵画「蒙古襲来 絵詞」 □写真「防塁跡」	発言内容やノートの記述から、「鎌倉幕府と御家人は、元軍の集団戦法に苦しみながら戦い、元軍を退けることができたが、幕府は活躍した武士たちに新しい領土を与えることができなかったため、武士たちが不満をもつようになったことを理解できているか」を評価する。 【知-①】
8	これまで調べてきたことをまとめ、単元の学習問題に対する答えを考えることができるようにする。	○鎌倉幕府が成立したとき、承久の乱のとき、元軍がせめてきたときにおける、幕府と武士たちの関係について、これまでに調べたことを関連付けたり総合したりして、学習問題に対する答えを考える。		●発言内容やノートの記述から、「学習を振り返り、鎌倉幕府と武士たちとの関係について、自分なりの言葉で表現できているか」を評価する。【知-②】【思-②】
9	前時の学習を踏まえ、三度目の元軍との戦いに対し、幕府や武士たちがどのように対応したらよいかを考えることができるようにする。	○史実として三度目の元軍の侵攻が計画されていたことを知り、幕府の立場と武士たちの立場に分かれて、対策や要望について話し合う。	○絵画「蒙古襲来 絵詞」	●発言内容から、「学習したことをもとに、幕府や御家人が直面した課題への対策を考えようとしているか」を評価する。【態-②】

学習過程【学習問題をつかむ】1・2・3時 【学習問題を追究する】4・5・6・7時 【まとめる】8・9時

6. 本時の学習(7/9)

(1) 目標

元軍との戦いの様子について、世界地図や日本地図、蒙古襲来絵詞や写真資料などを調べて、読み取り、鎌倉幕府と武士たちは、元軍の集団戦法に苦しみながら戦うも、防塁を築くなどの工夫をし、元軍を退けることができたことを理解することができる。また、幕府は活躍した武士たちに新しい領土を与えることができなかったため、武士達は幕府に対して不満をもつようになったことを理解することができる。

【知識及び技能】

(2) 本時の展開

	学習活動	○主な発問 ・予想される児童の反応	□資料	◆指導上の留意点 ☆評価規準【観点】
導入 10分	<p>・元について知る。</p> <p>・学習問題をたてる。</p>	<p>○日本を従えようとする元とは、どのような国だろう。</p> <p>・モンゴル帝国の一部で、国内の東側にある。</p> <p>・領土がすごく大きい。</p> <p>・朝鮮を従えている。</p> <p>・でも、執権の北条時宗は、要求を退けた。</p>	<p>□地図「モンゴルの広がり」</p>	<p>◆「帝国」、「中国」、「朝鮮」、「元」等の語句の定義を丁寧に確認する。</p> <p>◆東アジアの大国である「元」の領土の範囲について読み取り、日本と比較して表現させる。</p>
<p>本時の学習問題： 鎌倉幕府と武士たちは、元軍とどのように戦ったのだろう。</p>				
展開 25分	<p>・学習問題に対する答えを予想する。</p> <p>・資料をもとに、鎌倉幕府と武士たちが、元軍とどのように戦ったのかを調べ、ノートにまとめる。</p>	<p>○元軍と、鎌倉幕府と武士たちの戦い方について、どのような点が異なるだろう。</p> <p>【元】</p> <p>・服が軽そう。・火薬兵器を使っている。</p> <p>・弓が短い。矢を腰につけている。・集団</p> <p>【鎌倉幕府と武士たち】</p> <p>・よろいをつけている。・馬に乗っている。</p> <p>・弓が長い。矢を背につけている。・一騎打ち</p>	<p>□絵画「蒙古襲来絵詞(元の平氏と戦う竹崎季長)」</p>	<p>◆戦い方の違いに着目することで、元軍の方が機動力に優れていることに気付かせる。</p>
		<p>○元軍との2度目の戦いにそなえて、鎌倉幕府と武士達はどのような工夫をしたのだろう。</p> <p>・海岸に防塁を築いた。</p> <p>・船の上で戦った。</p>	<p>□地図「元軍の進路」</p> <p>□写真「防塁跡」</p> <p>□絵画「蒙古襲来絵詞(海上の戦い)」</p>	<p>◆元軍は、武士たちの激しい抵抗や暴風雨などにより、大きな損害を受けて大陸に引き上げたことを補説する。</p>

	<p>・元軍との戦い前後の武士たちの思いについて考える。</p>	<p>○なぜ、武士たちは、元という大国との戦いにひるまずに命をかけて戦ったのだろう。</p> <p>・戦いで手がらをたてると、恩賞として新しい土地をもらえるから。</p> <p>○なぜ、九州に領地をもつ竹崎季長は、わざわざ鎌倉まで行き、幕府の役人と直接会ったのだろう。</p> <p>・恩賞がほしいと訴えるため。</p>	<p>□絵画「蒙古襲来絵詞（恩賞を求める竹崎季長）」</p>	<p>◆前時の学習内容を想起させ、ご恩と奉公について改めて確認する。</p> <p>◆「一所懸命」について補説する。</p> <p>◆元軍との戦いの後の武士たちの思いについて考えさせ、幕府に不満をもつようになったことを理解させる。</p>
まとめ 10分	<p>・本時の学習問題に対する答えをまとめる。</p>			
<p>鎌倉幕府と武士たちは、元軍の集団戦法に苦しみながら戦うも、防塁を築くなどの工夫をし、元軍を退けることができた。しかし、幕府は、活躍した武士たちに新しい領土を与えることができなかったため、武士たちは、幕府に不満をもつようになった。</p>				

【板書計画・ノート計画・ワークシート等】

